

1300組合員の総決起でスト破りを粉碎せよ!

助役棧関士線見策動粉碎 2.19、25佐倉、成田へ!



全組合員のみなさん。
昨日(十八日)、国鉄当局は、三月ジェットストライキ破壊を狙い、全国から二十七名の助役関士をスト破り要員として千葉局へ導入する暴挙を強行した。そして本日、佐倉・成田における線見訓練を強行しようとしている。しかも国鉄当局は、わが動労千葉の一月総決起に追いつめられた危機意識にかられ、県警機動隊、管内職制、全国から狩り集めた鉄道公安を総動員して強行しようとしているのだ。

これに対しわが動労千葉は、昨日、助役関士導入撤回を要求して団体交渉を行い、さらに夕刻からジェット支援共闘会議のたかや仲間とともに千葉鉄道管理局を包囲する戦闘的デモを貫徹し、助役関士線見訓練実力阻止の意志を、権力・国鉄当局にたたきつけた。全組合員のみなさん。密集せる反動をうち破り、天をも衝く怒りをもって意気軒昂として二・一九、二五、佐倉・成田へ結集したたかやをうち抜かん。



スト破りを粉碎せよ

助役関士導入・線見訓練攻撃は、わが動労千葉が、三里塚闘争の絶対的勝利と、八〇年代日本労働運動の戦闘的転換をかけた八一春闘爆発の突破口をきざすことを目標に組織の命運をかけてたかや労働連帯ストライキを、権力の強権力で圧殺せんとする、政府支配者階級とその出先機関、権力・国鉄当局の凶暴ななりふりかまわぬ攻撃である。

われわれは、この凶暴な攻撃の中に、敵の弱さとわが動労千葉の三月ジェットストライキへむけたたかやの前進を確信できるのである。

権力・国鉄当局は、三月ジェットストライキが爆発することをなによりも恐怖し、それゆえに、動労「本部」反動分子と結託し、このたかやの予防的圧殺に血まなこになつてきた。4・15「本部」反動分子のスト破り襲撃を口実とした布施組織部長に対する解雇処分、そして一・三一大量処分攻撃、「55・10ダイ改」、「本部」反動分子の裏切りによる乗務員運用合理化IIジェット輸送要員生み出し攻撃、一・二七、三〇の「本部」反動分子による銚子支部破壊―地本「再建」デッチ上げ攻撃等々がそれである。しかし動労千葉は、この「前門の虎」(権力・当局)「後門の狼」(「本部」反動分子)の攻撃を正しくみすえ、一月総決起の勝利をかちとり、三月闘争の勝利の道をきりひらいてきたのである。

権力・当局は、この動労千葉の組織力・闘争力

に恐怖して、三月スト破壊の最後の手段として、助役関士導入―スト破りを策動してきたのだ。

弾圧体制をうち破り決起せよ

権力・当局によるこの明白なスト破り攻撃は、逆に動労千葉の三月ジェットストライキの路線の正しさと、そのたかやの社会的・政治的影響力を証明するものである。

つまり、三月ジェットストの爆発が、軍事大國化攻撃の要としてある三里塚空港政策に重大な打撃を与え、政治反動と労働運動の右傾化の中にあつて首切り合理化・賃下げ、強労働の攻撃に反撃し、苦闘する全国の労働者の決起をかならずや促すことを敵権力・当局は最もよく知るからであり、それゆえに凶暴なまでのスト破り攻撃と、弾圧体制をかけてきているのである。

全組合員のみなさん。

本日からの助役関士線見策動粉碎のたかやは、以上の構図の中でたかやわかれるのだ。

権力・当局に一指たりともふれさせず、「本部」反動分子の背後からのスト破壊II組織破壊を許さず、労働連帯の絆をよりうち固め、三月ジェットスト貫徹、動労千葉の組織強化をかけて、うって一丸となつて助役関士線見策動粉碎のたかやに決起しよう。